

## 令和4年度 県の主な事業について

## 1 子ども支援オンライン研修会・交流会

## (1) 目的

子どもの貧困についての理解を深め、県民全体で困難を抱える子どもたちを支援し、すべての子どもたちの未来を応援する取組みの機運の醸成を図るため、従来のフォーラム及びセミナーの開催に代わり、ZOOM等を活用したオンライン研修会・交流会を開催し、子どもの貧困対策に係る取組みの支援を継続する。

## (2) 実施内容

## ① オンライン研修会

テーマを設定し、子どもの貧困に関する有識者などの講演や、子ども食堂、学習支援団体などの活動報告・課題共有を行うことで、子どもの貧困に係る理解促進と人材育成を図る。

(年2回予定)

## ② オンライン交流会

県内の市町村と共催し、地域の子どもの居場所実施団体や子どもの居場所に興味のある方、支援希望者・団体などが相互に交流する場として開催し、地域における子ども支援のネットワーク化を図る。(年4回予定)

## 2 子ども食堂支援事業

## (1) 目的

- コロナ禍でニーズが高まっている子ども食堂の活動継続のため、新しい生活様式に対応した取組を行うボランティア団体等を支援するとともに、県域における活動団体のネットワーク化を支援する。

## (2) 事業内容

## ① 子ども食堂応援事業協力金

感染症対策のほか、フードパントリーや宅食など「新しい生活様式」に対応した取組を行う子ども食堂に対し、協力金(1箇所10万円)を支給して活動の支援を行う。 資料1-2参照

## &lt;第1期申請&gt;

4月27日(水)～5月20日(金)

申請団体数	県内 52 団体 (支給団体 52 団体)
開催形式	会食 19、弁当配布 9、食材配布 3、複数形式併用 21
開催頻度	数か月に1回 2、月1回 18、月2回 12、月3回以上 20 (不定期の場合は月平均)

## &lt;第2期申請&gt;

7月1日(金)～8月19日(金) 第3期以降の日程は未定

## ② 子ども食堂ネットワーク化支援事業

子ども食堂の中間支援団体への委託事業として、次の4つの業務を実施する。

### (ア) 県内子ども食堂活動状況調査

県内で子供の居場所づくりを実施している団体等に対し、アンケート調査を年1回実施する。

### (イ) ポータルサイト充実・更新

(ア) のアンケート調査を通じて各食堂をリストアップし、活動情報等についてポータルサイトでの情報発信を充実・強化する。

### (ウ) 相互支援のための会議の開催

県内で子どもの居場所づくりを実施している団体等を参加対象とし、共通課題の検討や成功事例の共有により活動継続を支援することを目的に、月1回程度オンラインで開催する。

### (エ) 子ども食堂相互の連携支援、企業等からの寄付受入れのコーディネート

民間企業からの寄附等の支援や、子ども食堂相互の連携支援などのコーディネート機能を担う窓口となり各種調整を行うことで、県域における子ども食堂のネットワーク化を図る。



## 3 子ども支援WEB講座

### (1) 目的

子どもの貧困についての理解を深め、子どもの居場所づくりに係る取組みを支援するため、子どもの支援に係る講義レポートを作成し、県ホームページ上に公開することで、取組みの支援を継続する。

### (2) 実施内容

新規テーマでの講義レポート作成を有識者等に依頼し、県HPで公開（年4回予定）

第1回 子ども食堂における衛生管理（仮） 7～8月頃公開予定

第2回 子どもの貧困をめぐる課題（アフターコロナの子ども支援）（仮）

8～9月頃（予定）

<参考> 既に公開済のテーマ一覧

令和2年度

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
コロナ禍での子ども の貧困の現状 (東京都立大学教 授 阿部 彩氏)	新型コロナ流行下 での子どもの生活 (県立総合療育相 談センター医師 原口 光代氏)	マルチトメントが子ど もに与える影響に ついて (認定NPO 法人 児童虐待防止全国 ネットワーク理事)	新しい生活様式 に対応した活動  ①子ども食堂	新しい生活様式 に対応した活動  ②学習支援団体

令和3年度

第1回	第2回
フードドライブ活動を通じた子どもの食支援 (公益社団法人 フードバンクかながわ)	子どもに広がる「見えない貧困」 (県立保健福祉大学准教授 吉中 季子氏)